

山口大学農学部・獣医学部同窓会東京支部

Pioneer

最先端を走る同窓生に今を語って頂きます

白井 淳資 先生 (元東京農工大学 農学部 共同獣医学科 獣医伝染病学研究室 教授)

山口大学農学部獣医学科 1977年卒業

山口大学大学院農学研究科獣医学専攻 1979年修士課程修了

～山口大学同窓会と私～

昭和52年3月に山口大学農学部獣医学科を卒業し、同大学農学研究科修士課程に進学、昭和54年4月に農林水産省家畜衛生試験場に入省しました。その後、平成19年4月に農業研究機構動物衛生研究所(家畜衛生試験場から機構改変)から東京農工大学農学部獣医学科獣医伝染病学研究室教授に就任しました。そして、令和2年3月に東京農工大学を退職しました。私は山口大学農学部獣医学科に入学できたお陰で、このような経歴を歩む事が出来たと思っております。私の第一志望は北海道大学の獣医学部でしたが、希望は叶わず、当時二期校であった山口大学を受験し運よく合格することが出来ました。当時の北海道大学は理類一括で受験させ合格者を専門科目に進学する過程で、希望者を成績順に進学させるという方式が取られていました。そのようなことから、もし北大に合格出来ていたとしても、希望する獣医学部には恐らくは進学出来ず、進学希望者の少ない専門課程に進学せざるを得なくて、獣医師になれていなかったと思っています。



山口大学農学部を受験した時、特に印象に残っているのは、最初の受験科目国語の監督に来られた故牧田元学部長が注意事項の説明の最後に「わからなくても、日本語の試験だから何か書いておきなさい。」と仰っておられたことが印象に残っています。入学してからは、石津寮という民間の学生寮に入り、そこでお酒、マージャンそして社交ダンスなど色々なことを覚えることが出来ました。大学の授業にはあまり出席せず、決して真面目な学生ではなかったと思っています。

大学院に進学したのは、学生生活をもう少し続けていたかったのと就職するための準備時間が得られることが大きかったと思います。農林水産省を目指すようになったのは、専門科目の先生方が講義中にお話される優秀な先輩方のお話(いわゆる伝説の先輩方)の中で、農林水産省に入省した先輩のお話が沢山出てきたことが原因だと思います。そこで、同期の古賀俊伸氏(現日本獣医師会事務局長)と「皆で受けよう国家公務員試験!!」キャンペーンを立ち上げ、国家公務員を目指す機運を獣医学科内で高め、その勢いに乗り合格できたと思っています。しかし、国家公務員試験に合格出来た後、古賀と農学部を歩いていたら、同窓会にも頻繁に出席して頂いていた故小田良助教授に会ったところ、「君たちは就職することが出来たかいね?」と聞かれたので「僕たちは農林水産省に就職しました!!」と胸を張って答えました。そうしたら、小田先生は「日本の国も、もう終わりじゃな!!」と一言だけ仰ったのを鮮明に覚えています。学生時代よほど受講態度が悪かったせいだと思います。また、私と古賀が農水省に合格してからは、後輩たちが「農水省なんか誰でも入れる!!」と思った為か、長井伸也日本生物科学研究所(日生研)理事長などは、農水省を蹴って日生研に入りました。私共は伝説の先輩として、それ以後の講義中に登場することは決してありませんでした。

農林水産省家畜衛生試験場に入ってから、牛、豚、鶏のウイルス性感染症を中心に研究を進め、そのお陰で東京大学農学部獣医学科獣医微生物学研究室の故見上毅教授のご指導で、「鶏腎炎ウイルスの幼雛への尿酸塩沈着症の誘発に関する研究」により東京大学から農学博士の称号を受けることが出来ました。また、フランス政府給費留学生として、国立農業研究機構(INRA)豚病研究所で「豚伝染性胃腸炎のワクチンに関する研究」を行い、JICA(国際協力事業団)の技術専門家として、タイ国立口蹄疫ワクチン製造センターで「口蹄疫不活化ワクチンの効力判定試験に関する研究」、マレーシア国立獣医学研究所で「ニパウイルス感染症の発生原因に関する研究」を行うことが出来ました。これら、長期の在外研究の他、豪州、英国、米国、イスラエル、チュニジアなどで開催された国際学会および国際会議への出席を経験させて頂く事が出来ました。このように、国

家公務員になれば、色々な国に滞在することが可能で、色々な経験が出来ると思っております。このことから、色々な経験が出来て自分自身のキャリアアップが出来る国家公務員を、これから卒業される学生さんたちの就職先の一つとして強く推薦したいと思えます。

とりとめのないお話をしてきましたが、退職する時に出席したこの同窓会で、退職後の就職先がなかった私に元北里大学教授の前原大先輩から、コーセー美容専門学校の衛生管理講師を紹介され昨年まで務めさせて頂きました。しかし、本年は転居のため、この仕事を続けることが出来なくなりましたが、私の後任として山大獣医学科の後輩である広瀬徹氏（同窓会で講演された広瀬治子氏の夫）を推薦することが出来、紹介されたお仕事を山口大学で継続することが出来ていると思っております。これらのことから、山口大学同窓会員である繋がりから、就職や色々なことが可能となると思っておりますので、これからもこの同窓会を盛り上げて、これからもずっと継続して頂きたいと思っております。同窓会の皆様ならびに幹事の皆様、特に深町先生、何卒よろしくお願ひ致します。

私の軌跡 No.7

母校で学び、各界で活躍された同窓の方々から波乱に満ちた、真摯な軌跡を語って頂きます。

矢ヶ崎 忠夫 先生 獣医学科17回生

～家畜衛生行政に携わって（回顧）～

家畜衛生行政は、畜産経営に大被害を及ぼす家畜疾病との綿々と続く闘いである。小生が農林水産省に入省した昭和44年頃は、急性の家畜伝染病はコントロールされるか限局的な発生であり、平成11年に退職するまでの30年間、幸運にも悪性家畜伝染病の発生には遭遇していない。しかし、周辺諸国では悪性家畜伝染病が蔓延しており、人や物の国際交流が盛んであることから、何時国内侵入があってもおかしくない状況にあった。奇しくも退職後の平成12年には92年ぶりに宮崎県で口蹄疫が発生し、平成13年には牛海綿状脳症（BSE）の国内初感染牛の確認、平成16年には79年ぶりに山口県で高病原性鳥インフルエンザの発生、平成30年には26年ぶりの豚コレラ（豚熱）が発生している。これらの発生事例に遭遇していれば、想像を絶する繁忙に見舞われていたことであつたらう。時限爆弾の上に座しているような家畜衛生行政への携わりではあつたが、経験した家畜衛生行政の一端について、薄れゆく記憶を呼び起こしつつ、回顧してみたい。



家畜伝染病の防疫業務への直接の携わりは短期間であつたが、強く記憶に残っているのは、平成9年に台湾で豚に口蹄疫が発生し、瞬く間に台湾中央部の高速道路に沿って蔓延、台湾全土に被害が拡大した事例である。地理的にも近く、人や物の交流も盛んであつた沖縄の島嶼部への侵入が危惧されたことから、事前対応として一部の島嶼部の豚を予防殺し、未然に防ぐ措置をとった。幸いにも当時は口蹄疫の国内侵入を免れたが、口蹄疫は東南アジア、中国に蔓延していたこともあって、平成12年、平成22年には宮崎県で発生してしまった。特に平成22年の発生では、2,350億円と我が国最大の被害額を及ぼす事例となり、家畜伝染病の侵入阻止の困難さを実感させられる。

BSEについては、英国で大発生していることもあって、平成9年に家畜伝染病予防法を改正し、法的な措置ができるよう対象疾病として加えるとともにサーベイランスシステムを導入したが、平成4年には既に国内侵入していることが判明した。BSE発生国由来反芻動物の肉骨粉等の禁輸措置は講じていたが、全面使用禁止措置等の強力な対策以外に国内侵入を阻止しえなかつたのではないかと悔やまれる。

豚熱については、平成4年を最終発生として、それ以降の発生がないことから、清浄国となるべく奔走してきた結果、平成18年にはワクチン接種を全面的に中止し、平成19年には清浄国としての認定を得ることができた。しかし、韓国、中国での発生の増大に伴い、従前の国内ウイルス型と異なるウイルスによる発生事例が起こってしまった。清浄度を維持することができなかつたことは残念である。

家畜衛生行政と言ってもその範囲は広く、家畜伝染病の防疫（家畜伝染病予防法）のほかにも家畜疾病と闘うための人材の育成（獣医師法）、闘いの道具となる薬剤、防疫資材の供給（薬事法）、防疫業務を実際に担う組織（家畜保健衛生所法）の維持強化を所掌している。いずれの業務にも携わってきたが、そのうち、人材の育成関係で記憶に残るのは、平成4年の獣医師法の改正がある。改正業務は熾烈を極め、総括担当として幾日も庁舎で寝泊まりしながらの作業となつてしまった。これも獣医師の資格法と業態法を一本の法律の中で規定していることに対する法制局からの指摘により、獣医

療法を獣医師の業態法として新たに制定することとなったことによるものである。改正獣医師法では、獣医師の専管業務に鳥類を加え、卒後における研修を努力義務とすること、獣医療法では、獣医療の安定的な提供を確保するために、獣医療計画を策定し、これに基づく獣医療施設の開設に必要な低利資金を融通できるようにすることなどを主な内容とするものである。新法制定は、各省の所掌範囲にも関係することから、その折衝は厳しく、幾日も費やしたことを鮮明に呼び起こされる。また、薬剤、防疫資材（薬事法）の供給関係については、最も長く携わることとなったが、飼料安全法に基づく飼料添加物の指定等の業務や薬事法に基づく動物用医薬品の承認審査業務、承認基準の国際的標準化業務などを経験してきた。

農林水産省に入省して以来、種畜牧場における診療業務、出先機関や県における畜産振興業務等の現場業務が10年、動物用医薬品の薬事行政が10年、保健衛生業務が10年といろいろな部署で業務を経験することができた。緊迫した環境下に置かれたことや業務に追い立てられるような繁忙のときもあったが、いずれにしても仕事は人が行うことには変わりはなく、実効性と継続性が力であると先達から教えられながらの30年間であった。先輩、同僚、後輩等関係者の支援によって無事に勤められたことに感謝、感謝である。

母校便り

① 第72回獣医師国家試験の結果が2021年3月15日に発表され、山口大学の現役合格者は30/30(100%)でした。

② 2021年3月23日に大学院修了式及び卒業式が行われました。また同日、成績優秀者表彰が執り行われ、農学部からは生物機能科学科の田中萌菜さん、共同獣医学部からは前田祐希さんが表彰されました。同窓会会長賞として、共同獣医学部の後藤菜々美さん、篠塚康佑さんの二名が表彰されました。山口大学ホームページにて修了式及び卒業式の動画が公開されています。

http://www.yamaguchi-u.ac.jp/info/_9106.html

③ 卒業生の進路（共同獣医学部）



<過去3年分の就職先>

個人動物病院/NOSAI香川/日高軽種馬農業協同組合/アニコム損害保険株式会社/ワケチノーバ株式会社/森永酪農販売株式会社/JCRファーマ株式会社/第一三共株式会社/川澄化学工業株式会社/株式会社新日本科学/農林水産省/静岡県庁/京都府庁/兵庫県庁/広島県庁/山口県庁/愛媛県庁/福岡県庁/佐賀県庁/大分県庁/名古屋市役所/明石市役所/広島市役所ほか



後藤菜々美さんと篠塚康佑さん

取材：在京山口大学農学部・獣医学部同窓会事務局

☆Hot Tips☆

この新コーナーでは、事務局の目に留まった動物学、獣医医療、医療、サイエンスなどの最新の情報や耳よりな情報（Hot Tips）をお届けします。

動物の腸に酸素送り “呼吸不全改善に成功” 東京医科歯科大

NHK News WEB、2021年5月15日 6時45分 配信

肺での呼吸が難しい状態にしたブタなどの動物の腸に、酸素を含んだ液体を送り込んで、呼吸不全の状態を改善させることに東京医科歯科大学などのグループが成功したと発表。

研究を行ったのは、東京医科歯科大学の武部貴則教授らのグループ。グループは、魚のドジョウは酸素が少ない環境では、えら呼吸だけでなく腸でも呼吸できることに注目し、哺乳類でも腸から酸素が吸収できるか調べました。

実験では酸素が少ない環境で重篤な呼吸不全になったマウスやブタなどに、高濃度の酸素を溶け込ませた特殊な液体をお尻から腸に送り込んで反応を調べました。その結果、マウスでもブタでも血液中の酸素の量が大幅に増えることが確認され、このうちブタでは1回400ミリリットルの液体で、20分間、呼吸不全の症状が改善したということです。

東京医科歯科大学の武部貴則教授は「新型コロナウイルスでは、人工呼吸器などが足りずに命を落とす人がいる。この方法が人にも応用できるように研究を進め、肺に負担をかけずに患者の呼吸を補助する腸呼吸の治療法の開発につなげたい」と話しています。

取材/編集：在京山大農学部・獣医学部同窓会事務局

2018年10月7日に、湯田温泉のホテルかめ福でV48同窓会を行いました。全国各地から19名(+子供6名)が集合し楽しい時間を過ごしました。当日は湯田温泉酒まつりが開催されており、町も大変賑わっていました。その時の写真の一部を掲載します。懐かしい山口の景色をお楽しみください。ドローン写真は岡本さんによる撮影です。次回は2022年にV48同窓会を計画していますが、新型コロナが落ち着いて安心して開催できることを願っています。



ホテルかめ福から大学方面の眺め



酒まつり@井上公園(旧高田公園)



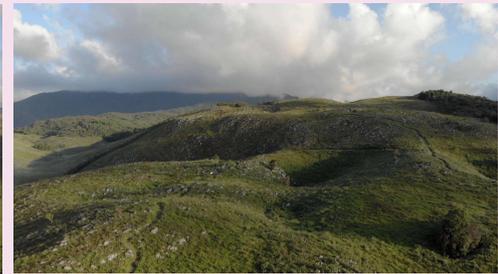
湯田温泉駅の白狐と駅舎内の足湯



樺野川河口から新山口(旧小郡)を望む:高度60m



秋吉台、長者が森展望台付近:高度120m



🍷 バトンコーナー ~私の近況~

B4, 1998年卒 吉田修二さん

前回の平川さんよりバトンを受け取りました、1998年農学部生物資源科学科卒業、2000年大学院生物資源科学科修了の吉田修二です。修了後、種苗会社に就職しましたが、現在、食品関連の商社で営業しています。バトンを受け取りましたと言いましたが、実は事務局で妻の吉田恵子さんから、じゃあ平川さんの次は修二お願いね！と言われて、筆をとっている次第です。種苗会社時代に定期的に行っていた獣医学科の友人との飲み会で妻の恵子さんに出会い、現在は小学6年生の長男と小学2年生の長女と猫3匹に囲まれて、コロナ禍ではありますがそこそこ楽しい日々を暮らしています。学生時代は中高大と柔道部でしたが、現在は週末にキックボクシングでストレス発散しています。現在は、今流行の持続可能な社会の実現(所謂SDGs)を達成すべく、食品関連として食品ロス削減出来るような取り組みを取引先に紹介していますので、食品メーカーにお勤めの卒業生でご興味のある方はご連絡お待ちしております。新型コロナの蔓延の影響もあり厳しい状況が続いていますが、ワクチン接種が進んで、将来的には以前と同じように気軽に飲みに行けるような状況になりますのでその際には卒業生の皆さんで集まりたいですね。それまでもうしばらくの辛抱です。



会長 深町 輝康 (V16, S43卒) : smile-vet@chic.ocn.ne.jp
 事務局 桑野 昭 (V21, S48卒) : kuwa5ayt@green.ocn.ne.jp
 久保田 徹 (C2, S47卒) : tkubota39@m7.gyao.ne.jp

吉田 恵子 (V48, H14卒) : keicho@nth.biglobe.ne.jp
 平川 由佳 (V53, H19卒) : yspiyopiyo@yahoo.co.jp

メール配信にご協力をお願いします。
 皆様のメールアドレスを事務局までお知らせください。
 BCC配信ですのでアドレスは公開されません。

同窓会ホームページからもご登録いただけます。
<https://yamaguchiagrivet.wixsite.com/tokyo>



令和3年11月に予定していました
 東京支部同窓会は、
 新型コロナウイルス感染症の
 拡大防止の観点から中止致します。

編集後記 当事務局も顔を突き合わせての打ち合わせが叶わないまま1年半が過ぎようとしていますが、皆様のお力添えの下で第8号紙を発行する事ができました。まだまだ制約の多いご時世ですが、困難に直面した時ほど、人は助け合い、成長できるという事を実感します。皆様のご健康をお祈りしています。 事務局 吉田